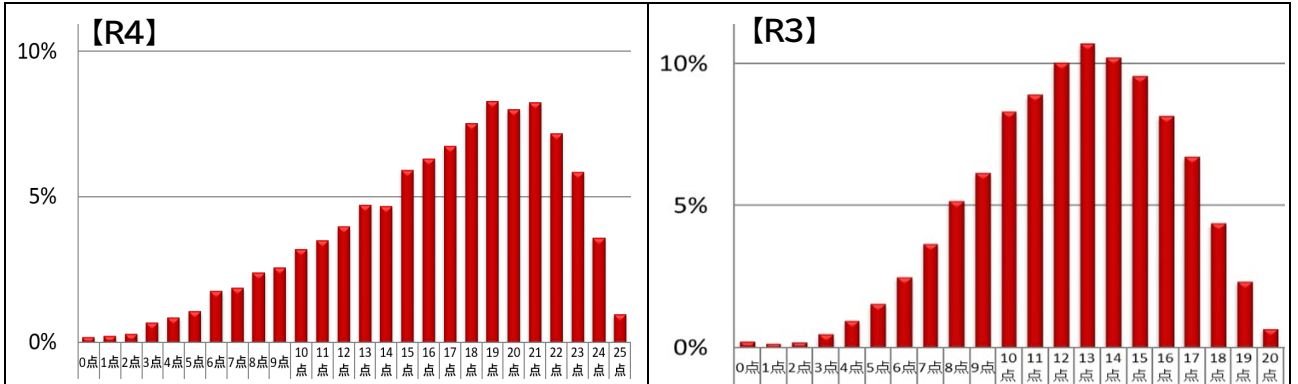


授業改善の手引 中学校第2学年国語

1 調査結果

(1) 分布状況



○ 問題数はR3年度から5問増え25問、正答数の最頻値は19問、平均正答数は16.6問です。平均正答数より最頻値が高くなっており、R3年度の分布と比較すると、山が右の方へ寄っています。ここ数年の傾向として、最頻値や平均正答数に近い層の割合が高くなっています。
 (正答数の最頻値：該当する生徒数の最も多い正答数)

(2) 領域等の正答率

観 点 ・ 領 域 等	正答率 ()はR3
知識・技能 (8 問)	71.0% (75.0%)
思考・判断・表現 (話すこと・聞くこと) (4 問)	71.3% (77.8%)
思考・判断・表現 (書くこと) (5 問)	61.7% (54.8%)
思考・判断・表現 (読むこと) (8 問)	60.6% (47.1%)

(3) 結果概要

- ア 【知識及び技能】については、8問出題され平均正答数は5.7問でした。
 - 「漢字を正しく書く」は正答率92.4%であり良好、「語句に関する類別の理解を深める」は正答率83.3%、「文節について理解を深める」は正答率81.7%で概ね良好でした。
 - 「漢字の成り立ちについて理解を深める」は正答率43.4%で課題が見られます。
- イ 【思考力、判断力、表現力等】(話すこと・聞くこと)については、4問出題され平均正答数2.8問でした。
 - 「自分の考えが明確になるように、話の構成を工夫する」は正答率86.0%で概ね良好でした。
 - 「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する」は正答率55.7%で課題が見られます。
(授業実践アイデア例 参照)
- ウ 【思考力、判断力、表現力等】(書くこと)については、5問出題され平均正答数3.1問でした。
 - 「資料を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く」の正答率は41.8%であり、自分の考えを記述して答えることについて引き続き指導の工夫が必要な状況です。
- エ 【思考力、判断力、表現力等】(読むこと)については、8問出題され平均正答数4.8問でした。
 - 「登場人物の言動の意味を捉える」は正答率80.3%であり、昨年度より改善していました。
 - 「文章の展開を確かめながら要旨を捉える」については、正答率49.9%であり昨年度より改善しているものの引き続き指導の工夫が必要な状況です。

(4) 経年比較問題の状況 (○改善、◇改善傾向、●課題が継続、▲はR3県学調との比較や付すを表す)

通番号	正答率	比較	調査のねらい
○ 9(知・技)	83	17	語句に関する類別の理解を深める。
◇ 17(読)	58	0	表現の効果をとらえて読む。
◇ 21(読)	50	6	文章の展開を確かめながら要旨を捉える。
◇ 23(読)	54	23	文章の構成や展開を捉える。
● 25(書)	42	▲ 5	資料を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く。

○通番号9「語句に関する類別の理解を深める」は、改善傾向が見られます。

◇通番号21「文章の構成や展開を捉える」通番号23「文章の構成や展開を捉える」は、改善傾向が見られますが、依然として正答率は低い傾向にあり、指導の工夫が必要です。

【問題番号3】 正答率 55.7% 無解答率 0.7%

1 問題のねらい

自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる

2 授業実践のアイディア例

県北教育事務所（普代村）指導主事 佐々木 潤

第2学年 単元名「魅力的な提案をしよう」 資料を示してプレゼンテーションをする（光村図書）

- ◎「話すこと・聞くこと」の指導事項ウ「資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること」を重点として取り上げ、5時間扱いで指導しました。資料の効果や適切さについて考えるために、生徒が資料を用いる意図を明確できるように指導しました。
- ◎「新しく着任した校長先生に、町の散策コースを提案する」という言語活動を設定し、自分の住む地域の魅力ある場所や事柄について調べ、相手の興味・関心に合わせて資料を示しながらプレゼンテーションをする学習を行いました。相手を限定することで、学級で情報を共有しやすくし、資料の工夫について考える時間を増やすことができましたようにしました。
- ◎指導に当たっては、集めた情報の中で特にアピールしたい点を効果的に伝えられるように、話の構成や資料提示の工夫について考えることができましたようにしました。その中で、自分たちで撮影した動画を一度だけ取り入れることを条件として与えました。どのような意図で、どこにどのような動画を挿入するかを考えることを通して、相手や目的に適したより印象的な提案ができるよう、次のような単元の学習過程を展開しました。

- ① 「プレゼンテーション」とは、相手の理解や同意を得るために、自分の考えを提案・説明することであることを知り、資料やICT機器を活用して印象に残る提案の仕方を考えることを確認する。
- ② 提案する相手、話題、目的に合わせて情報を集める。
- ③ 集めた情報から話の構成や資料提示の仕方と、動画を挿入する場面を個人で考える。グループで話し合い、話の構成や資料提示の仕方と、動画を挿入する場面を決める。

〈動画の例〉

- ・ 地域に残る歴史的価値の高い建物の中の様子を案内する。
- ・ 美しい景色が見える場所までの道で迷いやすいところを知らせる。
- ・ 名物の食べ物について、地域の人にインタビューした様子を伝える。

動画を用いる意図について、例えば以下の3つのような観点を示し、選ばせます。

- ア 話の要点や根拠を明らかにするため。
- イ 説明を補足するため。
- ウ 中心となる事柄を強調するため。

こうすることで、生徒に意図を明確に持たせることができます。

- ④ ICT機器を活用し、プレゼンテーション用の資料や動画を作成する。役割分担や時間配分を決め、制限時間内に魅力的な提案ができるよう、構成や資料提示の仕方を確認しながら、話し方を練習する。
- ⑤ グループごとにプレゼンテーションを行う。動画を用いる意図について、3つの観点をもとに互いに質問したり助言したりする。
- ⑥ 校長先生を招いてプレゼンテーションを行い、学習を振り返る。

※ 数字は学習活動の順序を表すもの。

◎評価に当たっては、プレゼンテーションの進行案を整理したワークシートから、いつ、どのような資料を提示しようと考えたかを見取るようにしました。動画を挿入する部分については、相手や目的を踏まえた意図を記述することとし、その効果を生徒が自覚化できるようにするとともに、指導者が評価する際の材料としました。

【問題番号 14】 正答率 75.7% 無解答率 1.5%

1 問題のねらい 読み手の立場に立って文章を整えることができる

2 授業実践のアイデア例

県南教育事務所 指導主事 川村 晃博

第2学年 単元名「郷土のよさを伝えよう 地域の魅力の紹介文」(東京書籍)

◎「書くこと」の指導事項エ「読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えること」を主たる目標として、6時間扱いで指導します。文種は「紹介文」であり調査問題内容の「意見文」とは異なりますが、重点とする指導事項つまり単元で育成したい資質・能力を明確にして意図的に指導を累積し、文種にかかわらず「より効果的に伝わるように推敲すること」ができるようにすることが大事になります。また、主語と述語の対応や誤字脱字等の表記面の確認にとどまることなく、中学校第2学年の指導事項にある「表現の効果」を意識して推敲するなど、「推敲の視点」を明らかにして誤解のない表現やより効果的な表現にしていくことができるようにすることが重要です。

◎他学年や保護者の方々に、地域の魅力を伝えるために、一人一人が紹介文を書いて推敲し、学級でまとめて「学級タウン誌」を作成するという、相手意識や目的意識、方法意識を大事にして、「地域の魅力がより効果的に伝わる紹介文を書く」という言語活動を設定します。

◎指導に当たっては、ICT(一人一台端末)を活用して一人一人が書いた文章について、更に効果的に魅力が伝わるように推敲するため、グループで読み合ったり、コメントを添えたりするなど、次のような学習過程(本時)を構想しました。

- ① 他学年や保護者の方々に、地域の魅力を伝えるために紹介文を書くという、読み手や目的を確認し、紹介文に必要な要件や表現の効果から「推敲の視点」について考え合う。

〈表現の効果の例〉

- ・ 読み手を惹きつける書き出し
- ・ 会話文の使用
- ・ 着眼点とわくわくする描写
- ・ 比喩等技法の活用

- ② ICT(一人一台端末)を活用し、グループで紹介文を読み合い、「推敲の視点」に沿ってコメントを添える。

〈ポイント〉

- ・ 書き手の思いや意図を明示させること

〈書き手の思いと意図の例〉

- ・ 地域の名所について、郷土の先人との関わりを中心に紹介したい。
- ・ 名所の描写や先人のエピソードを取り入れたり、読み手に呼びかけたりして、魅力が伝わるように紹介したい。

〈アドバイス〉

- ・ 書き手が何を考え何について伝えたいのか、書き手の思いと意図を理解することを大事にした上で、「推敲の視点」をもとに検討してコメントを添えることが大事になります。

- ③ 友達からのコメントを参考にして、自分が書いた文章を読み直し、「推敲の視点」をもとに加除修正する。伝えたいことを明確にして文章を整える。
- ④ 推敲後の文章を、推敲の意図とともにグループで紹介し合う。
- ⑤ 単元の各時間にICT(一人一台端末)に保存して書いた文章を見返し、より効果的に伝わるように推敲することのよさを実感する。

◎評価に当たっては、学習の様子や単元を通してICT(一人一台端末)に各時間保存していた文章から学習状況を把握し、指導に活かします。本時では、推敲の意図とともに、推敲前の文章と比べて、学級で大事にしたい「推敲の視点」をもとに、読み手の立場に立って表現の効果などを確かめて文章を整えているかを把握します。

第2学年 単元名「表現の効果に着目して読み、随筆の魅力を語り合おう」

教材名「字のない葉書」(光村図書)

◎「読むこと」の指導事項エ「観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えること」を重点として取り上げ、6時間扱いで指導しました。

◎本単元では「表現の効果に着目して読み、随筆の魅力を語り合う」という言語活動を設定しました。

◎本単元の指導に当たっては、父の人柄や心情の描き方について、個人での読みで気づいたことを班、全体での交流につなげ、全体での深い読みにつなげることを意識させました。作品に描かれている父の人柄や心情を考えることを通して、表現の効果に気付いていけるよう、次のような学習過程を展開しました。

①個人で作品を読み、父の人柄や心情が描かれている表現を取り上げる。

〈取り上げる表現〉

- ・父の人柄や心情を的確に表現しているところ
- ・人柄や心情を直接書かずに、行動や様子の描写することで表現しているところ

②①で取り上げた表現を基に、前半と後半の父の描き方の違いを考え、父の人物像について話し合う。

③父に対する「私」の思いについて考え、随筆の魅力を語り合う。

◎評価に当たっては、父の言動や様子から、人柄や心情の描き方について考えを書いているかどうかを見取っていきました。さらに、生徒の記述にコメントを書くことで、新たな視点を生徒にもたせ、追指導を行っていきました。生徒に紹介したい記述については教科通信に記載し、全体で共有しています。

◎本単元だけでなく、生徒が中学1年時から文学的文章を読む際、語句に立ち止まりながらその表現の効果を捉え直すことと、解釈の根拠を言葉から見つけることを指導している。

〈「少年の日の思い出」における指導例〉

例 「客は夕方の散歩から帰って、私の書斎で私のそばに腰かけていた。」

→夕方に散歩に出かける客とはいったいどのような客なのか

→客と私の関係はどのような関係か などについて、言葉を根拠に考える活動を行った。

また、文学的文章で使われている表現を使わないときと使ったときの比較を行うことで、表現の効果について考えさせた。

例 「四つの大きな不思議な斑点が、～僕を見つめた。」

「四つの大きな不思議な斑点は、挿絵のよりずっと～見えた。」

→斑点が見つめるから視点がどうなっているか。映像はどのように変化するのかについて、言葉を根拠に考える活動を行った。

嶋崎先生の実践から、「言葉にこだわって読む」ということを生徒の実態に即して指導している点を学びたいです。第1学年では、語句一つ一つの使われている意図に迫ることで作品の世界観に迫る学習活動を組んでいます。その結果、作者の意図的な表現が作品の世界観につながることを生徒が実感しています。この学習の積み重ねがあるからこそ、第2学年で言葉を基にして、自分たちなりに表現の効果について考えることができている。国語の授業を少しでも楽しいと思っしてほしいと願う嶋崎先生の気持ちが伝わる実践です。

【問題番号 23】 正答率 54.4% 無解答率 3.0%

1 問題のねらい 文章の構成や展開を捉えることができる

2 授業実践のアイデア例 二戸市立福岡中学校 指導教諭 辻村 順子

第2学年 単元名「説得力を高める」(東京書籍)

◎「読むこと」の指導事項エ「観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えること」を重点として取り上げ、同じ単元の「書く」活動を見通して指導の構成をしたいと考え、14時間扱いで指導しました。

【単元計画】

時間	活動
読む	二つの文章を読み、それぞれの筆者の主張をまとめる(内容比較)
	それぞれの文章の構成と、論の進め方について文図を作成しながら比べる(形式比較)
	「主張・考え」と、その「具体例・根拠」の関係と適切さについて考える ※「根拠の吟味」については、次の「書く」活動のページに示されている「言葉の力」を参照
8	学んだことを生かし、説得力があると考えた構成で「美」についての自分の考えを書く
書く	根拠を吟味して書こう～「地図」の意見文
話す聞く	説得力のある提案をしよう～プレゼンテーション

◎二つの文章を「説得力」を観点として読み比べ、「説得力」のある文章構成や論理展開について考えます。文章構成、「主張・考え」と「具体例・根拠」の関係を図式化し、どちらの文章に説得力を感じるか、意見と理由を述べさせます。

- ・『黄金の扇風機』＝序論・本論・結論の三つのまとまりで構成
- ・『サハラ砂漠の茶会』＝前半(体験→体験の意味付け)・後半(視点拡大→結論)の二つのまとまりで構成

◎指導に当たっては、各段落の要点やキーワードを付箋に書き分け、考えと根拠を整理させることを通して、それぞれの筆者の論の進め方が明確になるよう学習過程を考えたいです。その際、以下のような小学校や過学年の既習事項を確認します。

- ・各段落の最初や最後の文に要点が表現されていないかに着目する。・キーワードに着目する。
- ・各段落をつなぐ、接続する語句に着目する。・具体例は「根拠説明」であること。

◎「説得力」にかかわる「根拠の吟味」に関しては、次の「書く」活動のページに示されている「言葉の力」を参照し、客観的な事実に基づいているか、根拠から意見が適切に導かれているか、反論ができないか等話し合いながら吟味していきます。

◎評価に当たっては、文図として視覚的に整理する学習活動において、二つの文章の論の進め方の違いを捉え、より「説得力」のある文章を選び、その理由を述べられるかで見取るようにします。

例)「〇〇」の文章の方が、具体例に客観性と広がりがあり汎用性が感じられるため、説得力がある。

県北教育事務所(軽米町) 指導主事 菊地 光史

文章構成の価値や優れた論理展開の理解ができる読み手と、自分の文章構成と論理の展開を自覚できる書き手は一体のものであり、その資質・能力の育成には一方からのアプローチでは至りにくいものです。辻村先生の実践は、構造的な理解を基に同一のアプローチで立場を変えらるといふ学習活動を通して、本質的な資質・能力の育成を目指す点で貴重な提案です。国語科の各領域を一体としてとらえることは、「言葉を使って生きていく力」を付けていく上で重要な視点であり、大切にしたいことです。